

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

賛美

前半；16:56:00

キングダムセミナーの本から言えば、今パート4、「関係」である「神の国」のところの途中ですね。99ページの【人を赦す王権の行使】ってところまで来ました。今、キングダムセミナーの中での大きな、大きな山場がいくつかあって、みんな大切なものだけれど、これまでやってきた中で、この「関係」である「神の国」というところが、良く消化されていれば、パート4がより深くなります。ですから、どうか、ここだけ切り取って、聞いたとしたら、何か、分かりづらいと思います。

この前、終末について話しましたよね、あの部分は、この前も言いましたけれど、過去に皆さんが聞いてきた中よりも、ちょっと耳新しいことだったかも知れませんが、それに、これ（王権のところ）も全然関係ない話ではありません。パルーシアという今の時代に様々な回復が起こっているのですよ。その回復の中の大きなものを皆さんご存じだと思いますけれど、深く言えば、あんまり聞くことがないかも知れませんが、要するに、主との王権の行使、《神の国の啓示》と言うものが明らかになっていきます。

「神の国」っていうのは、あそこにある、ここにある、死んだ後にあるとか、天国にあるとか、あるいは再臨後にあるとか、千年王国後にあるとかっていう、そこにある、ここにある、ここからあるというものではない。「神の国は、あなたのただなかにある」という、と言うことは、どっちよ。ずっと向こうにあるような書き方もしているし、「今、私たちの内にある」という書き方にもしている。「今あるの？未来なの？どっちなのよ。」「どっちも、です。」ですから、「今の御国を失ってしまうならば、ずっと先、知りませんよ。」「今の御国は、じゃあ何なのよ。」と問われるならば、——みなさん、あんまり耳にしなかったかもしれませんが、キングダムセミナーではハッキリ、言っています。——それは、我々の《リレーションシップ》です。神との《リレーションシップ》です。御子イエスとの《リレーションシップ》です。聖霊との《リレーションシップ》です。

それを今まで、何回も言ってきましたよね。特に、・・・みんな大事なだけれど、特に聖霊との《リレーションシップ》というのを案外分らない。「聖霊のバプテスマを受けているから、いいでしょう。」と言う。いやいや、御霊は、私たちの内に来られた「助け主」です。ということですよね。0：23：04.13

このパルーシアの期間の中に、私たちの関係性も顕わになっていく。私たちの内側にある者も顕わになっていく。隠しおおせるものはなく、家の中に置いてあったものが表に出される。そう言う時代でもあります。ですから、「父との関係」、「イエスとの関係」、「聖霊との関係」というものを、同じその関係性の中で、今度、我々、「互いの関係性」というものが新たになって来ると言うことが、明らかになってきました。で、その一つが、95ページにある【互いについての啓示を得る王権の行使】でした。24：10.70

イエス様が、ペテロに『わたしは、あなたの上に教会を建てる』と言われた。イエス様はペテロがどういう人なのか、ペテロがどういうクリスチャンなのかを知っていた。よく分かっていた。なぜならば、ペテロ自身も「あなたはわたしを誰というか」と尋ねられ、「あなたは神の子キリストです。」と答えた。（マタイ16：16）ペ

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

テロはイエス様が誰かという啓示を得ていた。イエス様はそれに答えられた。この両者の関係性というものを、先月見てきました。

「それはペテロだからでしょ」と、言うかもしれない。いやいや、そうではないですよ。パウロは後の手紙で、兄弟姉妹達の関係についても、いろいろ話しています。その中で、彼は「人間的な思いで、私たちは主を知らない」と言っている。「人間的な目で、思いで、私たちは他のクリスチャンを知ることはあるまい」と言っているんです。Ⅱコリント5章16節、「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はそのような知り方はしません。」と言っている。これは、キリストに対して標準を合わせて言っているけれども、一転、16節で人間的な標準で、人を知ろうとはしません」と、書いてある。だから、御国のクリスチャンは、互いに、霊的な目線で持って、つまりキリストの相互内在しているあなた、あるいはこの人に向かって、「キリストの視点」で、その人を見るんです。そういう目で、じっくり、思いとどまった時がありますか。我々が、成熟していこうと思えば、そういう視点というか、・・・キリストに対して標準を合わせた思いが、何が何でも入って来るんです。ハイ。0：27：46.93

ペンテコステ運動が盛んな時に、病気の人を見たら、「病気」だということだけで、何が何でもその人のところに行って手を置いていた。なぜならば、「あなたは病気だから、あなたは健康にならなければならない」という思いで。・・・そうなんだけれど、病気か健康かという「物差し」で、その人の内なる魂と霊の状況を何も知らないで、それでもっていきなり、手を置く。そうじゃあないんです。それを通してきた時代もあったんです。イエス様の癒しの行為が、福音書の中にいっぱいありますよね。それを、イエス様が病気の人に片端から手を置いて、みんなを癒したと、理解する人もいます。弟子たちが、あの人この人が、病気の人を、イエス様の前に引っ張って来て、「イエス様、祈って下さい。祈って下さい」と言う。それを、イエス様が片端からがどんどん癒されたというふうな「絵」で、受け取ります。

けれど、「すべて癒された」と、さらっと書いているところ以外、ハッキリと「病人との関わり合い」が、――イエス様はその病人に問いかけ、病人がイエス様に問いかけたという、詳しい話が、福音書に沢山あります。その中でもイエス様が、何をその人の中に見たのか。「イエス様、〇〇してください。」と言ってきた人の中に、リクエストがあったから、癒したというのではなくて、イエス様はその病人、一人ひとりに、その人の中に、「その人の本質」を見ているんです。そして、一言二言の会話の中ですけれど、そのことをよく汲み取っておられる。それを、みんなすべきなんです。一つひとつ、詳しく癒しの記事を読んでみて下さい。

この中にイエス様が、「何を聞かれたのかな」と、いうことを一つひとつ考えながら、聞くといいです。なかでもイエス様が、「その信仰を見て」というところが、結構あります。「信仰」を見られたんです。その人の「内なるもの」を見たんんです。外面を見たんじゃないじゃなくて、「内なるもの」を見て、次にすべきことをされたということです。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

「身体障害者だから」という目に見えるものを見ただけで、「ああ、もう、この人は、こうしてあげなくては、…こうすべきだ」と、いうふうに思うことがいっぱいあるんです。けど、その人の内側の信仰が、何に向けて、それを受け止めて、維持して、いくことが出来るかというところまで、私たちは、見てないんです。それも、このユダヤのイスラエルのイエス様のおられた時代の一般民衆というのは、多かれ少なかれ、神様の教えが、社会全体の中に生きて、その中で暮らして、その伝統と常識の中において、彼らは、イエス様に叫んだ。ところが、異邦人の民衆の中では、はなから、「神様の教え」という土台がありません。あるのは、偶像礼拝の宮やその礼拝や宣教の中で、教えられて、そして、目に見えるご利益があるか否か、ということが、大きな問題だったわけです。
0:32:52.45

これ、同じ状況で、現代も同じものだと思って、福音書の中にあるものをそのまま押し通すことが難しい所なんです。だけど、「御国の時代」になったら、その人、一人ひとりの「関係性」を私たちは知ることが出来ますから、その人の関係性に応じて、その人を助けてあげることが出来る。なぜならば、その人が見えるから、見えたから。だから、「外面的な見方、目に見える所だけによって、判断する前に」ということが、これ、とっても大事です。

自分のその人に対する希望や願いはあるでしょう。あって当然ですけど、その人が、本当に神の国において、成熟するためには、「今、何が必要なんだろうか」という、その人に対する啓示を、我々は受け取るべきです。34:19.10

【互いの姿についての啓示を得る王権の行使】(95 ページ)というところを先月やりました。どうでしょうか。一つひとつ、本当に思い巡らして頂けたら、幸いです。

このキングダムセミナーはですね、何で月に1回かというのと、…毎週やったらどうなにも良いだろうかと、思わないでしょ。皆さん。もう、消化不良になって、もう、大変ですよ。(笑) だから、前半と後半と、2回やりますから、それで、たっぷりと聞きなおしながら、消化しながら行きましょう。一つひとつね。

99 ページ【人を赦す王権の行使】に入ります。読みながら、説明しながら進めます。もし、コメントがあったら、どうぞ言ってください。それから、今回から、後半の最後にコメントのタイムを設けますので、遠慮なく言ってください。宜しいですか。じゃあ、99 ページの下の段から読みます。

【人を赦す王権の行使】

互いに赦し合うことの重要性について、聞いたことのない人はいないと思います。それは、「人を赦さないと、神もあなた赦さず、祝福を失い、肉体も病に侵されますよ。」と言った“神と人”の「関係」についてでした。しかし、赦しについてのみことばによりますと、“赦す”という心の行為は、ただ、“神と人”の「関係」にとどまらず、“人と人”の間に神の力を解き放つための重要な《鍵》であることが分かります。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

ヨハネ 20 章 21 節~23 節がその一つです。

「彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。あなたがたが誰かの罪を赦すなら、それ人の罪は赦され、あなたがたが誰かの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。』」 0 : 37 : 25.06

「聖霊を受けなさい」という命令が最初に来て、聖霊があなたの内に内住して、あなたと一つになるなら、(神との関係が壊れているままで、その人の罪がある以上は、聖霊は来れません。)つまり、聖霊が内住するということは、その人の罪は赦されます。そのあなたがたが、誰かの罪をそのまま残すなら、(←今度は、人との関係に移行しています。)他の人の罪をそのままにしておくなら、「それはそのまま残ります。」とは、どういうことよ。0 : 38 : 36.51

「あなたがたが誰かの罪を赦すなら、その人の罪は赦された。でも、あなたがたが、誰かの罪を放っておくなら、その人たちの罪はそのまま残る」ということです。これは、今までセミナーを聞いてきたならわかりますよね。なんで、私と主との関係が即、私と兄弟姉妹との関係に移るんですか。「何で？」——「共同体だから」、そう。別の言い方だと「集合人格だから」ですね。——キリストを頭とした「共同体」とし、「キリストの体」とされているということの大事な奥義を、ここで、もう、さらっと、言っているんですよ。

ところが、貧しいかな今現代人は、個人主義の時代ですから、個人主義に加えて、他人に無関心時代ですから、自分一人と神との関係で生きようとしています。でも、聖書の常識はそうではない。「神の国」の常識はそうではない。神様の常識はそうではない。初めから、神は人を「集合人格の原理」で、見ていらっしやいます。

アダムの一りの罪が、全人類にいったんでしょ。「集合人格」でなければありえないことです。そんな昔の失敗をなんで私が被らなければいけないんですか、と言いたい。ゆえに、後に第二のアダムのであるイエス様の贖いが、全世界の人の贖いとなった。このように神が見ているからです。 41 : 17.36

ハイ、次に行きますよ。

この誰かの「罪」は複数ですから、誰かの「罪々」で、単に「サタンの支配」を指すものではなく、人の犯す「個々の罪」を指しているものです。そして驚くべきことに、このみことばは、罪を赦すべき神に代わって、「聖霊を受けた人間に「罪を赦す力がある」ことを啓示しています。人間に「サタンを縛る権威」があることは周知のことですが、「人の罪を赦す権威」についてはあまり語られず、まして行使されることもありませんでした。しかし、このみことばをはじめとして、聖書には、天の御国の「鍵」の一つとして、《サタンを縛る代理権》とともに、《人を赦す代理権》が語られているのです。

続いて、ヤコブ 5 章 14 節~16 節を読みます。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

「あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主は、その人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」43：05.62

📖 「あなたがたにうちに病気の人がありますか。(いるなら) その人は、教会の長老たちを招き、「主の御名」によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。」←これで、病気の人というのは、主の体の中にいる人だということは、当然分かります。教会の長老たちが押し入ってやって来て「誰だ、誰だ」と言って、探してくれるんじゃないですよ。「自分が、・・・」ですよ。「長老さん、ちょっと、家に来てくれませんか。ぜひ、祈ってもらえませんか」と言うことですよ。「誰か、来てくんないかな」と言うんじゃないんです。

📖 「信仰による祈りは病む人を回復させます。主は、その人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。」←これって、祈る方が、・・・まあ、色んなケースがあるのを皆さん経験済みだと思いますが、——全然、その人の内面や過去を知らないけれども、祈っている最中に知識の霊が、賜物が働いて、その人の本当に核となる、コアな、苦しめているものを知ることがあるんです。そしたら、その人に前もって聞いてないけれど、「あなたの問題は、ここだね」と、いうふうに、そこを指示して祈ることが出来る。

だから、大勢の会衆がいる所じゃありませんよ。これって。来てもらって祈るというのは、おそらく、会衆中ではなく、その人の家でしょう。他の人にみんなに聞かすべきでないものを二人の間で、おそらく、長老は示されたことを語るでしょう。そしてその人は、悔い改める。そういうことが瞬時に起こるんです。それが、真実に主との関係を持ち、そして、教会の兄弟姉妹において、同じ御霊に心を開く人たちの中で起こるんです。ここで《病の癒し》ということと《罪の赦し》ということが、同時に書かれています。0：46：06.68次を読みます。

このみことばによって、《病の癒し》という観点から、《罪の赦し》の必要性が理解されてきました。しかし、《義人の祈り》という観点で言えば、《病の癒し》と共に《罪の赦し》に対しても有効であることが分かります。使徒パウロは、人が人を赦すということについて、次のような姿勢を示しています。100ページ下から1段目

「もし、あなたがたが(何かのことで)人を赦すなら、私もその人を赦します。私が(何かのことで)赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で(ἐν エン/中で)、赦したのです。」Ⅱコリント2：10

「《キリストの御前で～》のところは、正確には「御前」ではなくて、《ἐν エン》(←前にも言いましたよね。)、《中で》ですから、パウロは「自分の赦しがキリストの赦しである」と語っています。そしてこの《赦しの行使》をコリントの人々に指示しているのです。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

「わたしとあなた」なんだけれど、・・・先月言いましたように、『私とあなたとの間には、主がおられる。』我々は、互いにキリストの中にいる者です。だから「わたしがあなたを赦した」とすれば、それ程、キリストの中において、キリストと共に存在しているということが前提となっているわけです。

ハイ、次に行きますよ。101 ページ 2 段目

ただし、お分かりのように、聖書には「私はあなたの罪を赦す」という場合、二つのタイプがあります。一つは、「私」がその利害関係の当事者で、罪を赦す、赦さないについて語っている場合です。もう一つは、その人の罪とは直接的に何も関係ない「私」が、その人の罪を赦すという場合です。

まず、前者の場合から話しましょう。人を赦すとか赦さないとかは、私たち人間の些細な心の動きに過ぎず、怒ったり妬んだり、恨んだり、憎んだりといった、自分の内側でしか分からない、取るに足りないもののように考えられています。また、これらに影響があるとすれば、自分自身の心を束縛することだと、一般的には認識されています。しかし、キリストとの相互内在にある人にとっては、この認識をハッキリと変えなければならないのです。あなたの心の思いと決心は、あなたが考えているよりはるかにまさった力を周囲に放っているのです。

ハイ、こここのところ、大事です。続けますよ。

あなたの心の想念は、その場の雰囲気と相手に対する権威を持っています。もし、あなたが兄弟を憎むなら、その許さぬ思いが相手を束縛することになるでしょう。しかし、もし赦すなら、まして相手に「赦しを告白する」なら、「あなたの権威」で相手を自由にすることが出来ます。人がその場に存在するということは、周囲の人々や環境のすべてに十分”関係”しているということなのです。あなたがその場に存在しているのなら、あなたの霊の内にあるものが何であれ、人々の環境に対して、あなたの霊が行使されているわけです。【私たちの霊には【王権】がある】のです。【御国の関係】において、その人の霊の性質が現わされてしまうのです。 50 : 31.00

こここのところ、創世記の 1 章 2 章 3 章のところを詳しく聞いて頂きけたら、分かりますよね。もともと人間が神にどう造られ、どのように期待され、どの様な目的とされていたのか。慎重に創世記を見ると分かりますよね。『全てを治め、支配せよ』と言われた。「私たちは神様が支配し治めているんでしょ」と思ってしまうじゃあないですか。でも、慎重に創世記を読めば、そうじゃあないんですよ。箱庭にぽつんと置いた、なんかペットか、人形のように神様は造ったんじゃない。神は、人と共にこの造られた世界を国として完成させようとして、パートナーとして、信頼して、神の王権を委ねて造られた。そういうことを詳しくみてきましたが、我々は、ただ“いるだけ”でも、他の存在とは、違うのです。 次の 102 ページ、51 : 58.91

かつては、集會が恵まれたものになるかならないかは、司會者や説教者の善し悪しによるかのように巷で話された者でした。しかし、そのような時代も過ぎ去ろうとしています。集會に集っている各々がたとえ一言でも発することがなくても、おのおのがどういふ靈を放っているかによって、集會は大きく変化してしまうのです。もちろん、集會を

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

左右する霊的権威は、司会者や説教者にあったとしても、メンバーひとりひとりの影響力がますます大きくなってきています。ナザレで行われた集会では、集まった人々の放つ不信仰によって、イエスは力ある業が出来なかったのです。

私たちは、自分は集会の末席を汚しているだけなどと考えることはやめなければなりません。存在していること自体が奉仕なのです。何もしていなくても、語らなくても、そこにあなたがいること、それがキリストのからだにどんなに力を与えているかを深く知る時代に至っているのです。活発に動いたり語ったりする奉仕がどうしても注目されてしまいます。しかし、キリストの奉仕の原典は、『わたしは有る』と言われた御父の”存在のミニストリー”であったことを忘れてはならないのです。《有るもの》、その内側にあるものが、必ず、現わされるのです。自分たちに与えられている権威で、私たちは回りの人々に何を解き放っているのでしょうか。それは隠されたままであることはなく、必ず、現れ、明らかにされるのです。

次のみことばは、最後の審判の一コマではありません。

「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことで、おおいかぶされているもので、現わされないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものではありません。ですから、あなたが暗闇で言ったことが明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。」ルカ 12：1-3

そうですね。キリストは現れたんです。キリストの現れは、あったんです。そうすると、キリストのからだである我々ひとりひとりも現れます。あなたの内側にあるものが現れます。われわれの内側にあるものが現れていきます。あなたも現れ、私も現れる。【パルーシア】の学びをした時、“ファネイロ”、“現れる”というのを聞きましたよね。それは公然とした現れというよりも密かな現れ、キリストの密やかな現れ、そのように、私たちが自分の中に持たされたものが現わされる時です。(キリストの)からだの中で。キリストの集合人格の中で。

ハイ、102 ページ終わり

それだから、真に王権に基づいた「関係」に生きようと思えば、私たち互いの間で不真実なものはないか常に見て、不振の種をことごとく真実なものに変えていかなければなりません。自分の思いに“王権”があるゆえに、積極的に互いに“王権”として赦し合うことは、キリストのからだを完全なものにします。次あげられるみことばを、信者にある“王権”ゆえに命じられているのとして、黙想してください。

「また、立って祈っているとき、だれかに対して恨みことがあったら、赦してあげなさい。そうすれば天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦して下さい。」マルコ 11：25

「わたしが隣人の罪を赦しましたように、私の罪をも赦して下さい。」と言いますよね。それはなんか交換条件のように肩見が狭く聞こえて、考えてしまうかもしれないけれど、そうじゃあなくて、それだけ信頼されてあなたに王権が与えられているから、言われているんです。ですから、「私たちは自分たちの胸の内にとまっているから、周りに関係ないだろう」と思ってしまう。そりゃあ、中のものをバンバン言ってしまったら大問題だけど、(笑)「せめて内側にしまっておけよ」と言ってしまっておくことが賢いこと、忍耐だけれど、でも自分の中にある”存在のミニストリー”は、

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

働きますよ。だから、そこまで問われてしまう時が来ていると言っているわけです。58：25.16

だから、まあ、「許すか赦さないか」というトラブル、そういうハッキリ、明確になった事態に至らなくても自分の気に入らない人や、自分が好きだと思う人や、人間だからいろいろあるじゃあないですか。で、あの人を見ていたら、イライラしてくるとかね。(笑)口にしないけれども、自分の中で、誰でも人間は「いやー、あの人は、我慢できない。私は、合わない。」もう我慢できない、ちょっと、もういいかな」という、そういう人たちとだって、出会うわけですよ。だから、その初めの「一步の種」として、そういう好き嫌いや苛立ち、モヤモヤ、うっぶん、そういうものを自分の中で、どう支配していくか。言うことにたどらないとならないかもしれない。本当にそうですよ。そこまでいって、自分を治められる、自分の内側を治められるかということになるんですよ。

クリスチャンが青年から大人のクリスチャンになれば、・・・クリスチャンじゃあなくなつて、自分でしっかり治めてやっている穏やかな人もいますけれども、・・・自分の中にある道理では「いいよ」と、そのまま分かるんだけど、どうしても、苛立ちが来て、腹立ちさが来るという、そういう場合もあるでしょう。で、そういう場合にどう治めるかという、昔言いましたよね、私。ここじゃあないけれど、ラインだけのメッセージの時に。言ったと思うんですよけれど。

パウロが、こう言っているんですよ。「私の中に、どうしても罪がある。肉があるというのを知っている」と、言っているでしょ。でも、キリストにある私には、ないものだと。これは、いらぬものだと。でもこれを、「私のものでないものが、私の中にある」と言っている。覚えていますか？確認してみましょう。

ローマ書の7章18節。その前から読んでみましょう。ローマ7：15節から「私には自分のしていることが分かりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。16節もし、自分のしたいことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。17節ですから、それを行っているのは、もはや私ではなく、私おうちに住みついている罪なのです。18節私は、私のうち、すなわち、私の肉の内には善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。19節私は自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。20節もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行っているのは、もはや私ではなくて、私の内に住む罪です。分かる？これ。1：03：36.52

これ、クリスチャンになっているパウロが言っているんですよ。クリスチャンになる前のことを言っているんじゃないですよ。これを読んで、クリスチャンはみんな、胸をなで下ろして、「ああ、良かった。パウロでもそうなんだ」と、「やれ、やれ、一緒じゃんか」と、そういうふうに喜んでもらうために書いているんじゃないからね。(笑)

ということは、どうですか。その内に住んでいる者は、ここでハッキリ、パウロは言っている。「それを行っているのはもはや、私ではない」と言っているんです。これ大事よ。この見立てと決心。ここで、多くのクリスチャンとパ

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

ウロとの分かれ目が出る。パウロは「それを行っているのは私ではない」と言っている。ところが、多くの人は、「いやー、私だし…、」とガッカリしてしまう。「駄目だー」と思ってね、打たれてしまうんです。1：05：31.38

だから、私たちは、自分ではないんだったら、どうしたらいいんですか。追い払う。払拭する。解き放つ。要するに、自分はいい服を着ている。主によって新しい衣を与えられたんだ。だけど、服のここに汚れがついちゃった、ということでしょう。この汚れは、自分ですか？違うでしょ。本来この服にはないものしょう。じゃあ、どうするんですか？脱いで捨てるか、脱いで洗濯をするんでしょ。漂白剤を入れて。それを取ってしまうんでしょ。だから、こうです。

これ、もうね、私が長年やってきたことなんですけど、自分の中にムカムカする肉の思い、怒り、憎しみ、いろんなものがこう、くるじゃあないですか。それにさいなまれて、引きずっていくんです。いつまでも。礼拝に行っても、祈っても。ちょっとしたら、「ああ、まだあるわ」と思う。だけど「これは、私ではない」とパウロが言っているように、「これは私ではない」と言う。そして、その肉は、私ではないのだったら、じーっと、その肉を睨みつけて、見定めて、「お前はわたしではない」と言って、「切り放つ！」「離れていけ！」とやるんですよ。ハイ。

それをやったら、もう、(その場合にもよりますけれど)すぐさま、ぱっと、離れる時がある。離れなくとも、もう、5分、10分、30分、1時間後には、もの凄く楽になっている。それでも「いやー、そうは聞きましたけれど、離れませんね」という人がたまにいるんですよ。だから、私、その人に言うんです。「あなたね、それ、どこまで睨んだ？！どこまで、これだーという問題点を絞り込んだ？！そこに焦点を当てたか。ピントをピタッと合わせたか。ばやーと、これじゃないかなー？」と言うんじゃあ駄目ですよ。だから、よく言うんです。「ハエ叩きの原理」で、と。

今の若い人はね、ハエ叩きを知らないんですよ。これを言っても、「それ、なんですか」という人がいるんです。(笑)使えよ、ハエ叩きくらいと思うんですけどね。ハエ叩く時、ハエ叩きを持って、そーっと行って、あんまり風を当てないように、じーっと睨みつけて、一瞬で、ピシッとやるでしょ。その決心と、睨みつけが、潔ぎ良い行動なんですよ。それを、優柔不断に眺めて、右から見てみたり、左から見てみたり、裏返してしてみたり、・・・したって駄目ですよ。

それが、御国の私たちにはそういう、神の子としての、神様が、天の父が、私たちに王権をくださったように、「わたしは、あなたがたに王権を授ける」と、イエス様が言われたんです。そのイエス様が言われたことをそのまま使うことなんです。頭の中で、「そうか、そうか」と、分かってるだけじゃあだめなんです。これって、実際に心と体を動かして、やるかどうかなんです。ハイ。本当ですよ。まだしたことのない人は、やってごらんください。1：09：47.21

だから、恨み、怒り、憎しみが湧いてくる…という時に、ただですよ、「相手が、間違っただけをやっていて、こっちが赦してしまったら、それでいいんですか。その人は。」と思うじゃあないですか。それについても聖書に書いてありますよね。(マタイ 18：15)「罪を犯している、間違っている人なら、その人と、二人だけのところに行き、責めて戒めなさい。そして、その人が悔い改めたなら、あなたは、兄弟を得たのです。」と。1：10：27.78

「兄弟のところに行く時に、行く時に、ですよ。怒りと憎しみに、ガラガラさせて行くな」と言っているんです。ね。勿論、攻めて戒めて、叱ることもあるんですよ。あるんだけど、そこへ行く前に、もうすでに自分の内側には、

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

どいいですか。あなたは、こうこう、こうだったね。それ、どう思っているの？」と初めて言えるわけです。もっと、大きなことで言えば、それは大変な事件になって、もう、本当に、その人は警察沙汰になったり、訴訟事になったりするケースもあるかもしれない。

たとえ、そういうふうに責任を取らなければならないということになったとしても、我々は、「御国の民」は、それは相手がそれで悔い改めて、間違いに気づき、自分を立て直す為なんだと。その為に必要な社会的な処置なのであって、それはしなければ仕方がない。「けれども、あなたが悔い改めさえすれば、赦しが待っているんだよ。あなたの向きを変えさえすれば、道は開けるんだよ」と、←←←これが天の父の見方です。主イエスの見方ですよ。1：12：24.85

イエス様は、「御国は近づいた」と言っているんです。だから「悔い改めなさい。福音を信じなさい」と言っている。そうでしょ。バプテスマのヨハネは、「御国は近づいた。悔い改めなさい。」と言うけれど、その根底には、「斧はすでにあなたの足の下におかれているからだ」（マタイ3：10）と。初めに天の父は、もう創世記のあそこですすでに学んだように、エデンの園から送り出すときから、全部、道を備えて、もう赦す腹でいらっしゃるわけです。「ごまあ、みろ、出て行け」と「お前たち、みんな滅びだからな」と、天の父がそう思っていたか。あそこを詳しく読んだら、そうじゃあないよね。

どうか皆さん、裁きの思想で、この世の中を見ないようにしましょう。裁きとかたき討ちの思想で、神様は見ているんじゃない。主と相互内在にある御国の民は、神の心を、——自分の心の中のちょっとしたもやもや、ムラムラでも、苛立ちでも、それを、神の恵みの愛の中で治める方法を提供して、待っていて下さっているのを——知っているんですよ。1：14：45.56

ハイ、では、前半、もう少し進んでおきます。103 ページ、上から3段、真ん中あたりから読みます。

マルコ 11 章 22 節の「神の信仰を持つ」との命令に続いて、神の信仰の内容とも言える三つの事柄の一つがこれです。《人を赦す》ということが、神の持っている信仰を使うことの一つなのです。

信仰は「持つ」ものではなく、信仰は、「使うもの」であるということを知りました。信仰を持つというのは神との関係を持つ、一番最初の行為です。ところが、その信仰は、「イエスの信仰」であって、その信仰を我々は使うことを期待されているんです。ですから、どうぞ、ハッキリしておきましょう。私たち、クリスチャンと言われる人には、相互内在をしっかりと確信した人は、その人の生きていくこと自体が、回りへの奉仕です。だから、自分は何もできないから・・・」とか、「何もしていないから」とか言うとは、とんでもないことな のです。1：16：35.03

だから、その人の存在する、その人を通して、主は語って下さる。その存在を通して語って下さることを、聞きましょう。相手が、どんなに物静かでおとなしくても、あるいは、動かない人であっても、です。素晴らしいその人が存在を通して、聖霊が私たちを通して、語って下さることがある。もっと言えば、クリスチャンでない人であっても、で

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

す。主は、その人の存在を通して、自分に語りかけることが出来るお方です。そして、自分の中にある主の存在が、まず自分から現れて、回りに影響を与えることが出来るんだということです。それも、本当に腹をくくって、受け止めておいた方が良い事実です。

だからね、悪霊の戦いの話になると盛り上がるんだけど、本当（笑）、だけど、そんな、睨みつけて、この霊はあの霊だ、この霊だと言って、・・・必要な時はあるけど、主と相互内在をしている人は、ある意味で存在しているだけで、諸々の霊、チンピラの霊は、あなたに手を出せることがなく、あなたが行く道行く道、みんな逃げていきますよ。そんなもの。本当に、霊と戦うべき時があります。それはその時、自分の信仰を思いっきり使えばいいんです。だけど、そんなね、しょっちゅう、しょっちゅう諸々の霊を気にしている方がサタンの思うツボです。そうでしょ。

その道の人たちっているじゃあないですか。こう、・・・その道の人たちってさ、町の人たちを支配するやり方って、知ってる？要するに、そばを通りかかっただけでも、町で見かけたただけでも目と目が合っただけでも、「メンチを切る」って、知っています？見ただけでも、「お前、何睨んでんだよ。」と、がみを切る人たち。もう、そういうやり方、ありありなんです。通り過ぎただけでも、ゾットするような、もう、そんなものは、うろうろさせておけばいいんです。そしたら、そのアンちゃん達は、もっと、上の人たちと繋がっているわけでしょ。「親分、あそこの店にちょっと気に入らないやつがいてね」「そうかい、連れて行けよ」と、こう言う話になるわけです。ほんと、その通りですよ。だから初めから、そんなんにびびることがない自分になっているということ、受け入れて知っておかなければならない。ほんとに。それで、大きなのが来るんだったら来いよと。私は絶対負けない。なぜならば、私の内には、こうであって、私はこの中にいるからだ。負けるはずがない。サタンは、元々、敗残兵ですから。やられてコテンパンにやられて、逃げて逃げて、逃げ回っている存在でしかありませんから。私はそんなのを恐れるはずもなければ、絶対ありえない。もう目も座って、腹も座って、居ればよいことです。ハイ。

後半

今日は、この赦しのところの最後まで行きたいので、ちょっと、さっきのところから飛ばします。どうぞ、飛ばしたところは個人で読み、既に読んだところも何回も味わってください。

では104ページを開いてください。一番下の段落のところから読みます。

どうして主は私たちが赦すことが出来たのでしょうか。過去の罪だけでなく、私たちの日常の生活において、やはり、失敗や愚かな言動で主を悲しませることがあります。でも、どうして主は、私たちに対して常に深い同情心と慈愛を持ち、謙遜、柔和、寛容であることが出来るのでしょうか。「それは、主が神だから出来た」という答えで片付けられる問いではありません。

それは、キリストご自身の中で、私たち一人ひとりが「何であるのか」という啓示が、主の中に確立しているからなのです。だから、この【「赦し」の王権の行使】は、【「互いについての啓示を得る」という「王権の行使」と深いかわりがあるわけです。私たちが御国でどんなにユニークで貴重な一人ひとりであるかを知っておられるがゆえに、主は、私たちに至らないところがあっても、不満を抱くことなく、喜びを持って、忍ぶことがおできになるのです。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

🔊この中で、後で言うことになると思いますが、一言だけ言いますと、イエス様が言われたことばの中で、「わたしは、【自らをへりくだらせる「権威」がある】と言われた。凄いね。自分の神と共にある姿を重々ご承知の上で、イエス様は、「わたしには、自分をこの世において、彼らと等しくあることを固執すべきではない」と、等しくあることを「良し」とされた。それは、天の父に強いられてやっているのではない。十字架に強いられて、やったのではない。自分の「王権」でやったんだと。この【へりくだるという王権】もありますから覚えておいてください。

では、次、105 ページ 2 段目から読みます。3：38.62

私たちが現代、人を赦せなくなったり、不満を抱いたりする場合、その人から危害を加えられたり、非難中傷されたりと言ったことが原因である場合は、そんなに日常的ではありません。むしろ相手が自分の期待通りに働いてくれないから苛立ち、不満を抱き始めるのです。相手に対するこちら側の啓示の中で肉や魂的な願望がミックスされているからです。純粋に天の父からの兄弟に対する啓示に近づいているなら、彼がこちらの意に反したことを行ったとしても、こちらの反応は違ってきます。彼のために忍び、深い同情心、慈愛を持ち、謙遜、柔和、寛容であることが苦痛でなくなるのです。この状態で祈る《とりなし》に力があるわけです。このように【「赦し力」の王権の行使】は、【「互いの啓示を得る」という「王権の行使」】にかかっています。ということは、やはり、その人が見ている「神の国」の広さ、深さにかかっているのです。4：51.67

私たちはそこに成熟していく必要があるのです。乳飲み子の状態から、幼子になり、子供になり、若者、青年になり、そして、父を受け継ぐことが出来る大人になっていくという、神の子たちの成長過程があります。「あなたはいつたどのあたりでしょうか」と思わないといけない。「クリスチャンになった。信じた。洗礼を受けた。万歳。」それから、もう、・・・そのまま放つとかされていませんか。「次は、奉仕よ、奉仕」「え？奉仕？」・・・違うでしょ。

そう言うことではなくて、幼子には幼子、乳飲み子には「いのちのことばの乳」をしっかりと飲ましてもらってますか？そして、ハイハイが出来て、立ち上がりが出来て、伝い歩きが出来て、ことばを喋って、それから子供になり、子供時代まで、屈託なく神の子であることの楽しさと平安と安心を満喫しましたか？親の元で。親の覆いの中で、お兄さん、お姉さんの覆いのもとで、そんな中で、屈託なく、神の子の喜び楽しみを満喫しないといけない。それもさせないでね、「奉仕、奉仕」と言って、尻を叩いてはいけません。尻を叩くべき時は来ますから。

そして、青年になって、親の真似が出来て、親の代わりが時々できるようになるでしょう。そしたら、青年は、親の通りにやれたことが嬉しい。「おう、自分もできたじゃん」と言って、嬉々としてますよ。「悪霊を追い出した。追い出しましたよ」と言って、イエス様のところに弟子が来ました。それと同じように。「やった！」と言って喜ぶ。やたら、血の気が多いのが、青年達です。(笑)

でも、大人になったら、大人になっただけの、見て来たものがあるし、神の国の様子をちゃんと心得ているわけです。そう言う成長過程があって、神の国の広さ深さを思い知って、その上で、やっと、兄弟姉妹達の世話が出来るわけです。 いろんな幼子、子供、青年がいますから、・・・もう、当然ですよ。かつては、自分もそうだったでしょう。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

だから、忍耐をして、神の広さ深さを心に抱きながら、忍耐して、・・・その人の内にまだ足りないところが、荒れたところがいっぱいあるでしょ。けど、神がその人を、どう生んで下さっているのかというところの、その人なりの啓示を、私たちは、その人に持っているかどうか。自分の周りにいる子供たちに、それを持っているかどうか。それは、(神の国の) 広さ、深さにかかっているのです。 9 : 03.12

その次行きますよ。105 ページの下から 2 段目。

さて、【「人の罪を赦す」という王権】で、重要なのは、ヤコブ 5 章 (5 : 14-16) に出て来る長老のような赦しです。つまり、その人の罪と何の利害関係もないものが、その人の罪を神に代わって赦し、その人を自由にすることです。先にあげたヨハネ 20 : 21-23 のみことばは、どちらかというところ、この種の赦しを指しています。「そんな畏れ多いいいことが・・・」と、このような赦しに抵抗のある人も少なくありません。しかし、神の代理権は、ここにも及んでいるのです。 マタイ 9 章に、この抵抗感をほぐしてくれるみことばがあります。 9 : 57.39

はい、ここ、 の後半のポイントです。まず、マタイ 9 章 1-8 節を読んでみましょう。

イエスは船に乗って湖を渡り、自分の町に帰られた。すると、人々が中風の人を床に寝かせたまま、みもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、『子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。』と言われた。すると、律法学者たちは、心の中で、「この人は神を汚している」と言った。イエスは彼らの心の思いを知って言われた。『なぜ、心の中で悪いことを考えているのか。』『あなたの罪は赦された』というのと、「起きて歩け」と言うのと、どちらがやさしいか。』人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。 こう言って、それから中風の人に『起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。』と言われた。すると、彼は起きて、家に帰った。群衆はそれを見て恐ろしくなり、こんな権威を人にお与えになった神をあがめた。 マタイ 9 章 1-8 節

——『人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。』——というこの箇所は、おそらく何度も読まれてきた、よくご存じの話だと思います。中風の人の癒しには、この目的がありました。勿論イエスには、罪を赦す権威がありました。イエスがそういう人物であることを、ここで人々に知らせたのだと考えることは容易いことです。癒されて家に帰った人を見て、群衆はこんな権威を人(イエス)に与えた神を崇めたということです。

そう言うことですね。これが、サッと読んでわかることです。でもね、さあ、ここから深入りしますよ。午後眠いかもわからないけれど、頬っぺた叩いて。 12 : 21.20

しかし、興味深いことに「こんな権威を人にお与えになった・・・」の「人」は、原文では「複数」なのです。ですから、ここは「こんな権威を人々(人間たち)にお与えになった・・・」となります

👉これね、こんな権威を「人」なのか「人々なのか、——という原文の訳が色々あるんだけど、日本語訳のほと

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

んどが、「単数」で、訳しています。が、英語訳になると、結構、複数になっています。だけど、じゃあ、ここをどう解釈するかというところで、次の課題になっていく。では、その段落の続きを読みます。

だとすると、「イエスひとりに罪を癒す権威がある」ということがこの出来事の主題のすべてではなくて、《神は、人間たちに《罪を赦す「権威」を与えた》というメッセージが含まれていることになります。でも、反論としては、「こんな権威ある人（イエス）を人々（群衆）に、お与えになった、「神」を崇めたということであれば、「人」が複数でも問題はないということです。そうですね。14：02.02

しかしながら、日本語で「権威」というのと「権威ある人」（「権威を持っている人」と言うのでは明らかに言葉が違うように、ギリシャ語でも違います。たとえばマタイ7章29節の「イエスが、・・・権威ある者のように教えられたから～」の「権威ある者」と、この9章8節の「権威」は、言い方が違います。←9章8節は、「権威」という単語、言葉そのものです。そこで「こんな権威のある人（イエス）を人々（群衆）にお与えになった神を崇めた」ということであれば、7章29節の「権威ある者」と同じ言い方が9章8節に再び使われるはずなのです。しかし、現実には、原文において「権威をお与えになった」とただあるだけです。ということは、やはり群衆は「人の罪を赦す「権威」を「人間達」にお与えになった「神をあがめた」のです。

ここで、理解できましたか。できない？ ここの原文は「人々」になっているんだけど、「まあ、そんな深い意味は無いや」と、ひどい人になると「ああ、これは写本の間違いだろう」とも言われてきました。でも、「人々」という訳であったとしても、まあ、さっと、通り過ぎて言っている。この「人々」が重要視されるような解釈はしてこなかったはずですよ。それでね、「人々」というのが、「人々に与えた権威」という率直にその言葉だけなんです。

だから、パリサイ人は、何をどう怒ったのか、イエス様が、『人の子が、地上で罪を赦す権威を持っている。』と言った。その「人の子」自体がまた、問題なんですけれどね。続きを読みますよ。107ページの1段目のところから。17：40.97

律法学者たちは、「この人は神を汚している」と考えました。「神だけが人の罪を赦すことができる」と考えるからです。それは当時の律法解釈としては、正しい反応であったわけです。しかし、神の国の回復が、ここで大きく前進しようとしていました。イエスのみことばと行いによって、群衆は、「恐ろしくなった」のです。そして、人類にこのような「権威」を与えた神をあがめました。これまでの時代との大変化を、群衆は、いち早く感じ取ったと言えます。

次に行きますよ。

この箇所を思う時に、神の国の大きな回復を象徴する、イエスのよく使われていることばに注目する必要があるでしょう。イエスは「わたしが地上で《罪を赦す「権威」》を持っていることをあなたがたに知らせるために」と言いませんでした。「人の子が地上で《罪を赦す「権威」》を持っていることをあなたがたに知らせるために。」と言われたのです。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

「人の子」とは、何なのでしょう。聖書の中で、「人の子、人の子」と、よく出てきますけれど、本当に注目されない言葉のひとつです。これは、「神が人となられたから、「人の子」と言っているんでしょ。」とあって、それで通しちゃっている。でも、ベールが剥がれます。

「人の子」とは、「人となられた神」というイエスご自身の「人性」を強調していることばとして、一般的に受け取られていることが多いようです。しかし、この一連の学びと黙想の中で、イエスが、ご自身に当てはめて使われた「人の子」のさらに深い意味が開けています。旧約で127回、新約で86回と、聖書全巻の中でも非常にポピュラーな言葉が「人の子」です。これだけ読まれているにもかかわらず、あまり黙想的にはならない言葉でした。しかし、現代は、この「人の子」が極めて重要な時代にあるのです。

📖あのおね、旧約で127回使われているんです。これ、本当に時間を取ってちょっとコンコルダンスでも開いて、座り込んで調べてみるとわかりますよ、ほとんど、「全て」と言っているほど、「人の子」というのは、「人間」のことです。だから、「人間」のこととして捉えられていて・・・、イエス様が、自分のことを「人の子」と使うから、「人となられた神」という、受け取り方が当然なるんです。それは、間違っていない。イエス様の「人性」を言っている。じゃあ、次を読みます。

さて、イエス様が使われた言葉は、当然のことながら、旧約聖書にその背景を持っています。実は、旧約聖書における「人の子」とは、そのほとんどが「神に造られた人間」を指しているのです。唯一、ダニエル7章13~4節で、メシア的存在について用いられているだけです。

📖だから当然、そこに目が行くんです。ダニエル書を読んだことがありますか？あると思いますけれど、どんなことが書いてあったか、そこを抜粋してあります。107ページの下、

ダニエル7章13節

「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、（←ほらここで、「人の子」のようだが出て来る。）年を経た方のみもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、庶民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることはない。

📖何ですか、これは「人のことじゃあなかったの？」とんでもない。「人の子のようなものが天の雲に乗って現れた」と書いてある。それで、次を読みますよ。23：15.05

「人の子」がこのような所で出てきたがために、国の復興を熱望する民族にとっては、「人の子」の概念が大きく変化したのは言うまでもありません。以後、新約の時代から、現代に至るまで、「人の子」=「人間」という概念に「人の子」=「メシア」という受け取り方が加わって、この両者が混在するようになりました。新約聖書にはこの両者が書かれているのですが、伝統的には、圧倒的に「人の子」とは「イエス・キリスト」のことだと理解されてきま

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

した。しかしながら、ダニエルの幻の時点で、決して見落とすことのできない啓示があります。それが「人の子」の理解に決定的な「鍵」を持っているのです。ダニエル7章18節以降です。特に27節に注目してください。「国と、主権と、天下の国々の権威とは、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。」ダニエル7:27

ね、さっきの同じダニエル書の中にですよ。「国と、主権と、天下の国々の権威とは、・・・。」誰に与えられたんですか？「人の子」でしょう。ところが、後ほどそれが、こう言い換えられている。「いと高き方の聖徒である民に与えられる。」「その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。」と。今度は、「聖徒」たちになってきました。 どういうことよ。そうすると、もうだいたい、読みがつかますよね。次に行きますよ。

14節の時点では、主権や権威や国は一人の「人の子」に与えられると語られています。しかし、一方この幻の解き明かしの中では、主権や権威や国は「聖徒たち」に与えられると語られているのです。そうなのです。「人の子」とは、単に「イエス・キリスト、御一人」を指すものではなく、「メシアなる御方を頭とした聖徒たち全体」を指しているのです。

救い主なる主イエスのみが強調されなければならない時代には、「人の子」＝「イエス・キリスト」の理解で十分でした。それは全く正しい理解です。しかし、これからの啓示の回復の時代には、これまでの受け皿では受け取れ切れないということです。

このように、イエスが「人の子」として、ご自身のことを語られるとき、【大勢の聖徒からなるキリストのからだの頭】としての自分を指しておられたのです。そうです。「人の子」は、「キリストのからだ」と共に、【集合人格】を現わしている代表的な聖書のことばなのです。26:24.94

さあ、非常に有益な黙想の示唆がここにあるわけです。福音書の中でキリストの語られたみことばには、「わたし」を使っている箇所と「人の子」を使っている箇所がありますが、イエスは無造作に、その時の気分で使ったものではありません。この使い分けには、何が隠されているのでしょうか。「人の子は・・・」と書かれている所では、「キリストを頭とする私たち大勢の聖徒たち」がそこに含まれて語られているとすれば、それらのみことばは、イエス御ひとりにとどまらず、現代のキリストのからだへの預言でもあるのです。主の預言で、神のゴールである「神の国」が私たちの内に生み出されることでしょう。一つひとつの「人の子」のみことばを食べるとき、私たちはキリストの御姿、そして、その《みことばに成っていく》のです。「人の子が地上で罪の権威を持っているのを、あなたがたに知らせるために」と言われたのです。27:32.05

・・・どうですか。何故、こんな大事なことを通り過ぎて来れたのか。どう思いますか。それは、終末のことを言った時でわかると思いますけれど、終末の一点一極、そのラッパが響き渡って、云々というその“一局地”にすべてを投げ込んできたからです。

そうじゃあないんですよ。「主が来られる」と、多く使っているその「来られる」という「パルーシア」は、「一瞬

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

のことではない」と言いました。それは、一つの主の臨在が濃厚になる一期間というものを想定しなければならない。だから、主は、その一点一極の一瞬のことだけならばその為は何を用意する、あれを用意することだけで良かったんです。けど、「パルーシア」(臨在)という濃厚な期間の中で、私たちが、幼子から子供に、子供から青年に、青年から大人に成熟する。そして、神の権威を、自分たちは身に受けて、我々は変貌していくのです。29：40.79

イエス様が山の上でモーセとエリヤと対談したその時に弟子たちもいた、“イエス様の変貌山”で有名な箇所がありましたよね。我々聖徒たちも、もっともっとパルーシアの間に造り変えられて啓示が与えられて見えるようになっていく。そして、変えられていく。その一步一步の期間、私たちが変えられるその状況が、「終末」なんです。何で、それをあの一瞬だけにみんなそれを押し込めないといけないのか。それを、「パルーシア」という一つの期間を、単なる「来る」「来た」と言う言葉で、訳して平気だった時代だったんです。それは、これからもっと細かく開かれていかなければならない。30：54.98

それも、一気に知識がパーっと、その啓示が広がることはないと言いました。その中で、今、主に向いている人たちの飢え乾きによって、渴いて、主に向き、受け入れようとする準備が出来ようとしている人たち、それを、「残りの民」と言います。いつの時代もその一つの時代で、飽和状態になって来た後、その「真理」を受け持って、享受していた人たちの中で、「これが真理のすべてだ」と、いつの時代も、思うんだけど、「いや、もっとあるぞ」と思って、飢え乾いて行く少数の人たちをこれまで、この歴史の中で、主は、何回も繰り返して起こして来られました。

神様の啓示が、突然ポーンと来たんじゃないんです。それは、いつもです。ごく少数の「残りの民」を使って、その人たちを一つの起点として、手掛かりとして、神様はその人たちに油を注ぎ、啓示を与えて、その人たちをそのように歩み始めるように押し出して行くんです。少数ですよ。少数だけど寂しくない。その人たちにとって、「これが我が道」と思う道です。そして、どんどん進んで行くんです。その「残りの民」と言われる者たちを神は、ヒントを与え続けて、導き続けます。それは、これまでの真理を享受して歩んできた多くの人の中から出る。多くの国から、――1箇所、2箇所ではないでしょう。段々と、ひも解かれてわかってくるんです。そして、あっちこっちで真理のみことば、真理のメッセージが語られ始めていくんです。

だから、「えー、そんなこと聞いたことなかったわ。」「おかしいんじゃない」と、思ったでしょう。あの終末論の話聞いた時、「えー」と、思ったと思います。もう昔の話ですけど、私だって、それに気が付き始めた頃は、なかなか受け入れられなかった。「えー、そうなのか」と言って、自分でせっせと調べ上げなければならなかった。それで、そこを追求しなければ、おれなかった。

そうすると、所謂、いろんなムーブメントとして、例えば、マルチンルッターの宗教改革の時もそう。彼が一人でやったんじゃないからね。ルッターの100年も前から、同じようなことを言っている人が何人もいたんです。でも、破門されたり、火やぶりにされたり、もう、散々のことだったんです。その後、ジョン・ウレスリーの時もチャイルズ・ウエスレーの時もそうです。ペンテコステ運動が起こった時も、それがどーんと大勢の人に一気に起こったのではなかったんです。その前に、先がけとして、気がついて歩む人たちが沢山いたんです。

神様は、いつも、「残りの民」を掴んでおられる。旧約聖書の時からそうなんです。あの時代から。主は、「残りの民」を用意し、用いて下さったんです。イスラエル人が当時、ユダ族のイスラエル人が、みんな、全員があつという

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

間に、気が付いて動いて行ったんじゃないんですからね。極少数の者たちが先導して、それぞれ動いてきたんです。神のみことばに気が付いてね。35：50.91

ですから、今日、マタイ9章のところを開いたけれど、これは、マルコにもルカにもかなりの節を使って、書いてあるものがあります。で、マタイの言っていないことを、マルコが言っていたり、ルカが言っていたりもしています。で、そこを全部読み比べるとまた、凄く面白いんですよ。これも、マタイでは書いてないんだけど、・・・ほら、群衆で近寄れなかったので、天井を剥いで、四隅を吊るして下ろしたという、詳しい描写があるじゃないですか。で、イエス様は、やっぱりここでも、彼らの「信仰」を見て、対応をしているわけです。別に、その人に「大変な病気だね」と言われて、何かそれだけで動かれたわけではない。彼らの渇き、彼らの深い思いを知って、イエス様は、その彼らに、病人だけじゃないんだよね。――吊るしたその彼らに、共同体、兄弟をイエス様の前に連れて行くのが我々のチームの共同体である、我々は“チーム”だと、そういう名前を付けたかどうかかわからないけれど、チームの使命だと思ったのでしょう。とにかく連れて行ってあげようとする彼らの必至な思い、彼らの信じた信仰、それを、行使したわけですよ。

それで、面白いのは、最後に『あなたの家に帰りなさい。』というじゃない。「帰りなさい」というのは、これって、――新約聖書はギリシャ語で書かれたと言われるけれど、ところがね、ギリシャ語を読めない人もいっぱいいた訳よ。だから、もう一つ、アラム語で訳されていたんです。当時、広範囲な地域に訳されていたのがアラム語だったんです。ですから、イエス様がしゃべっていたのは、ギリシャ語だと思っている人がいるかもしれないけれど、イエス様はヘブライ語かアラム語だったと言える。アラム語は、本当に庶民のことばで、使いやすかったんでしょう。ヘブライ語と、ちょっと似ているんだけどね。私は、アラム語をあんまり、というか、ほとんど読みこなせないんだけど、アラム語に訳された聖書を持っています。そのアラム語に訳された聖書を、ヘブライ語に訳したものもあるんですよ。それは、古典ヘブライ語よ。39：07.61

それで、ここで、「あなたの家に帰りなさい」と言ってるのは、――所謂、アブラハムが、召された時、「行きなさい」、「あなたの先祖の家、父の家を後にして、私が示すところに行きなさい。」と言われましたよね。あの「行きなさい」ということばが、有名で、「レフ・レハー」と言うんですけど、(ホワイトボードに、ヘブライ語「レフ・レハー」 לֵךְ לְךָ と書かれる。)これ לֵךְ לְךָ を「レフ・レハー」と読むんですけど、アブラハムが召された時、「行きなさい」と言われたこのことばが、ヘブライ語を学んでいる人たちの中で、「これは何という意味なのだろうか」ということが、これが、問題になっているんです。40：33.14

なぜならば、これは、厳密に言えば、「レフ」 לֵךְ は、命令形で「行きなさい」と言われています。「では、どこに行くんですか?」「場所は?」それが、「レハー」 לְךָ なんです。これは何かというと、「あなたの方へ」ととれる曖昧な言い方がされています。ですから、「あなたは、あなたの方へ行きなさい」のような曖昧な言い方になっています。だから、一番解釈されているのは、「強調だ」と言われています。

「お前のところに行け」と、言われている。神様は、わたしの示す方に、「レフ・レハー」と言いながら、「じゃあ、どこに行くんですか?」「場所を言っていないじゃない」「あなたの方へ」と言ってるだけじゃん。←ここ、モヤモヤしませんか?これで良く、アブラハムは、質問し返さなかったですよ。神と一致しているから?それで、飲み込んで行ったんでしょうかね。でもね、これを巡って今まで、長年いろんな解釈があって、ユダヤ人の中でもキリスト教の間でも議論されてきました。皆さんもその一人ですよ。考えないといけない。

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

教の間でも議論されてきました。皆さんもその一人ですよ。考えないといけない。

あなたの行くべき道の方へ『あなたは、行きなさい。』という意味だと、あなたに与えられた道の中にあなたが行きなさい。それは、具体的に“カナン”という土地だったと、その当時は書いていない。けど、具体的に自然のレベルで、その地を分かるわけではないし、示されてされているわけでもないんだけど、アブラハムは、自分に与えられたその使命、重荷の中に「私は、行くべきなんだ。」と。「具体的なことは、後で示されるであろう」「でも、神が見ておられるところ、神がなそうとしておられるその道に、自分は行こう」と決めた。この「レフ・レハー」が、マタイ9章の一番最後（6節）に「(起きて寝床を担ぎ)『あなたの家に帰りなさい』と言う時に、同じように使われているんです。イエス様は、旧約からのその真理を土台にして、繊細なまでに、感性を使って、この人たちに対面していらっしゃる。44：07.22

そして、この人は一度家に帰ったんでしょう。そのあとで、問題になっているんでしょ。この後で、宮に来たんですよ。祭りの時だったんでしょう。そうでしょう。その時にパリサイ人、律法学者に攻められている。「お前、何でそんなことをしたんだ」と。つまり、イエス様が癒したのは、安息日だったから。安息日は、床を取り上げて歩いてはならないんです。ものを運んではならないんです。「なんでそんなことをしたのか」と聞くと、「いや、私を癒して下さった方が、『担いで帰れ』と言われた。『あなたの道に行きなさい』と言われたんです。そして、彼は、その通りを言うわけでしょう。ここで、私を治して下さった「方」というのは、その人は、ハッキリ、「メシアなるキリストだ」と、分かってないみたいなんです。どうやら。担いできた人たちは分かっていたのか、それは書いてない。46：00.59

このように、じっくり読むにはとても飽きないところです。私たちはまだまだ分かってないと思います。勿論、私も含めてですよ。もっと、解き放たれることがあるだろうと、思っています。だから、“パリサイ人達が怒り、群衆が驚いたそのことの中には、何があったんだろうか。ただ単に、癒されて、担いで帰った。というだけじゃあなくて、このような「権威」を人々に与えた神に驚いた。そして、それを感じて騒いだわけでしょう。又はイエス様の弟子たちの間では、もうすでにこういうことが、当たり前だったのかもしれないでしょう。47：25.42

だから、私たちは初めて自分の罪の赦しを体験した時、背きの罪を示されて、勿論、心を尽くして祈ったでしょう。けれど、皆さん、その時、共に誰かいましたか？誰かに祈ってもらっていましたか？それとも一人でしたか？いろいろあるだろうね。両方あるよね。

私もあります。前にも言ったように、自転車を降りて、あぜ道にしゃがみ込んで、本当に悔い改めて祈った。イエス様の十字架が分かったその時よ、その時がある。けれども、もう一つある。それは、共に一緒に祈ってもらっていた人が言ってくれたその言葉、「イエスの十字架によって、あなたの罪は赦された。」そう語ってくれたんです。

赦しの真理を明確に宣言してくれたのです。キリストの集合人格の「業」です。両方なければいけないということはないと思いますよ。そりゃあ、個人で色々でしょうけれども、我々が、大事な、大事な人生の節目で、自分を決定する時に、我々は誰か兄弟姉妹と共において、共に宣言してくれるということは、それが、《共同体》です。

たった二人ですけれど、《主と私とあなたという共同体》です。そう言うのを大切に大切に、一步一步歩むことです。人の前で、とか、大きなことじゃあない。「あの集会でこうでした」と言わなくていい。一つ、ひとつ、丁寧に、私はこのために、今、自分の犯した過ちを赦して貰いたいから祈る。「一緒に祈ってくれ」と、言えればいいんで

⑰回目東京キングダムセミナー20240210

す。このキリストのからだの「門」、「磐」は、ハデスの誰がやったとしても、サタンでさえも奪うことはできません。強いものです。だから、神の御国の「共同体の歩み」というのは、「王権を使う関係性」というのは、そういうふうの一つ一つ具体的に、進みゆくものです。丁寧に。51：02.51

何か「わーっ」と、集団の中で、礼拝の中で、聖会中で言われて、応答して、・・・それもいいんですけど、でも、このレベルをもっと深めていこうと思えば、私たちの周りには、その関係性を持った人達をしっかりと、持っておくべきです。そういう「リレーションシップ」を、大切にしておくということです。単に、クリスチャン同志の挨拶言葉や通過儀礼で、流れないで。ハイ。そして、一つ、ひとつ、積み上げていきましょう。

109 ページの真ん中の段を読みます。

【人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることをあなたがたに知らせるために。】

人の子の奥義を黙想すれば、マタイ9章8節の「こんな権威を人にお与えになった神を崇めた。」という《人》の部分が複数であるということは、決して、「写本の写し間違いだ」ということで片付けられなくなるのです。成熟したキリストのからだに、地上で罪を赦す権威が与えられているということを、主は知らせておられるのです。

私たちは、互いに罪を告白し、互いに赦しを宣言し、あらゆる束縛を解き、互いが互いをどんなにか自由にできることでしょう。神はすでに、あなたを解き放つことのできる人をあなたのそばに置いておられます。「王権」が啓示となり使い始めれば、「御国」が分かり始めるのです。53：18.13

まず、知識で分かることが、初めでしょうけど、「知識でなんとなく分かった」で、済まされる問題ではありません。これがじっくり、自分の生き方、生活になることが、大切なところです。

この【互いの啓示を得るという「王権】、そして、【赦すという「王権】、について、このためにかなりページを費やしています。

その次の【祝福し、解き放つ権威】というのも、よくお分かりのことだと思います。極く短くして言います。

そして、その次の【こころを合わせる権威】・・・けど、これにしっかりと、進むことによって、我々の目の、目つきが違ってきますよ。決してこれは、人に好かれようとしたり、人と仲良くしようとし人に期待し、自分を甘えさせる方に進むものではありません。周りに期待してね、全然そういうことではない。それは自分の相互内在の奥義を、しっかりと見極めていけば、余分な肉のな思いから、解放されていきます。ハイ。

さて、どうでしょう、ちょっと理解のレベルで、混んがらがっている人がいるかも知れません。もし、そうだったら、聞いて頂いても、いいですよ。あの、この質問とか、コメントの時は、録音しないことにしています。録音されていたら、言いにくいでしょ。何か、コメントありますか？